

2022年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市 産業経済部 観光課

1. 概要

2022年（1月～12月）の観光入込客数は、2021年の48万7,500人から40.8%増の68万6,600人となった。新型コロナウイルス感染拡大（以下：コロナ）前の2019年の125万2,000人からは45.2%減となり、2020年からのコロナによる影響が続いているものの、2021年と比較して回復傾向となった。また、2020年・2021年に引き続き、新型インフルエンザ等まん延防止重点措置（1月27日～3月6日発令）、訪日外国人観光客の受入れ制限（6月9日まで：全外国人観光客対象、9月6日まで：添乗員付き・全行程が決められたパッケージツアーのみ受入、10月10日まで：①添乗員付き・自由行動を含むパッケージツアー、②添乗員なし・往復航空券及び宿泊を旅行業者等が手配のみ受入）が行われ、本市の観光にも影響があった。

観光消費額は、2021年の26億9,755万円から52.3%増の41億877万円となった。コロナ前の2019年の63億2,277万円からは35.0%減となった。1人当たりの消費額は2021年の5,533円から451円増の5,984円となった。コロナ前の2019年の5,050円からは934円増加となった。（2021年比8.2%増、2019年比18.5%増）

宿泊客数は、2021年の6万8,485人から73.8%増の11万9,007人となった。コロナ前の2019年の10万584人からは18.3%増加となった。

観光入込客数に占める宿泊客数の割合（宿泊率）は、2021年の14.0%、2019年の8.0%から17.3%へ高まった。これは、2019年と比較して観光入込客数が減少した一方で、2021年に引き続き実施された「福岡の避密の旅」（10月より：「新たな福岡の避密の旅」）（以下：福岡避密の旅）や市の宿泊応援キャンペーンにより宿泊者の割合が相対的に高くなったことが大きな要因として考えられる。

交通用具別の入込客数は、自家用自動車は2021年の25万4,900人から52.0%増の38万7,400人、西鉄電車が2021年の18万8,000人から23.3%増の23万1,800人、大型バスが2021年の4万4,600人から51.1%増の6万7,400人となった。

交通用具別の割合は、自家用自動車利用者が56.4%、西鉄電車利用者が33.8%、大型バス利用者が9.8%の割合となっている。2021年と比較して、自家用自動車の割合が増加している。（2021年は自家用自動車：52.3%、西鉄電車：38.6%、大型バス：9.1%、コロナ前の2019年は自家用自動車57.4%、西鉄電車29.2%、大型バス13.3%）

川下りの利用客数は、2021年の7万4,770人から104.1%増の15万2,615人となった。コロナ前の2019年の36万5,266人からは58.2%減となった。緊急事態宣言が発令されていない事や、福岡避密の旅、10月からの外国人観光客の個人旅行の解禁等により増加した。特に川下りを行う割合の高い外国人観光客・団体旅行が大幅に増加したことが影響したと考えられる。

外国人観光客数は、2021年の357人から4,169.7%増の1万5,243人となった。コロナ前の2019年の19万6,403人からは92.2%減となった。2021年から続く外国人観光客の入国制限により、10月までは外国人観光客が殆ど来ていない状況であったが、10月以降の個人旅行の解禁により、回復傾向にある。

【新型インフルエンザ等まん延防止重点措置】

- 発令期間：2022年1月27日～2022年3月6日

【訪日外国人観光客受け入れ制限】

- 6月9日まで：全外国人観光客対象
- 6月10日～9月6日まで
 - ◆ 全行程が決められたパッケージツアーのみ受入
 - ◆ ビザ取得が必須
 - ◆ 1日当たり2万人を上限
- 9月7日～10月10日
 - ◆ ①・②のみ受入
 - ①添乗員付き・自由行動を含むパッケージツアー
 - ②添乗員なし・往復航空券及び宿泊を旅行業者等が手配
 - ◆ 1日当たり5万人を上限
- 10月11日より：水際措置の大幅緩和
 - ◆ 個人観光客の受け入れ再開
 - ◆ 1日当たりの入国者数の上限を撤廃

【全国旅行支援】

- 「福岡の避密の旅」実施期間：2020年11月5日～2022年10月10日
(利用停止期間：2021年8月1日～10月14日、2022年1月18日～4月8日)
- 「新たな福岡の避密の旅」実施期間：2022年10月11日～2023年6月30日

【柳川観光V字回復キャンペーン主要事業】

- 修学旅行誘致実施期間
 - ◆ 2021年7月1日～2022年3月21日
 - ◆ 2022年4月8日～2023年2月28日
- 灯り舟運行事業実施期間
 - ◆ 2022年7月15日～10月2日
- 観光バスツアー助成事業実施期間
 - ◆ 2021年7月1日～2022年3月21日
 - ◆ 2022年4月8日～2023年2月28日
- こたつ舟と柳川めぐりの旅パスポート（有料観光施設利用クーポン）事業実施期間
 - ◆ 2021年12月1日～2022年2月28日
 - ◆ 2022年12月1日～2023年2月28日

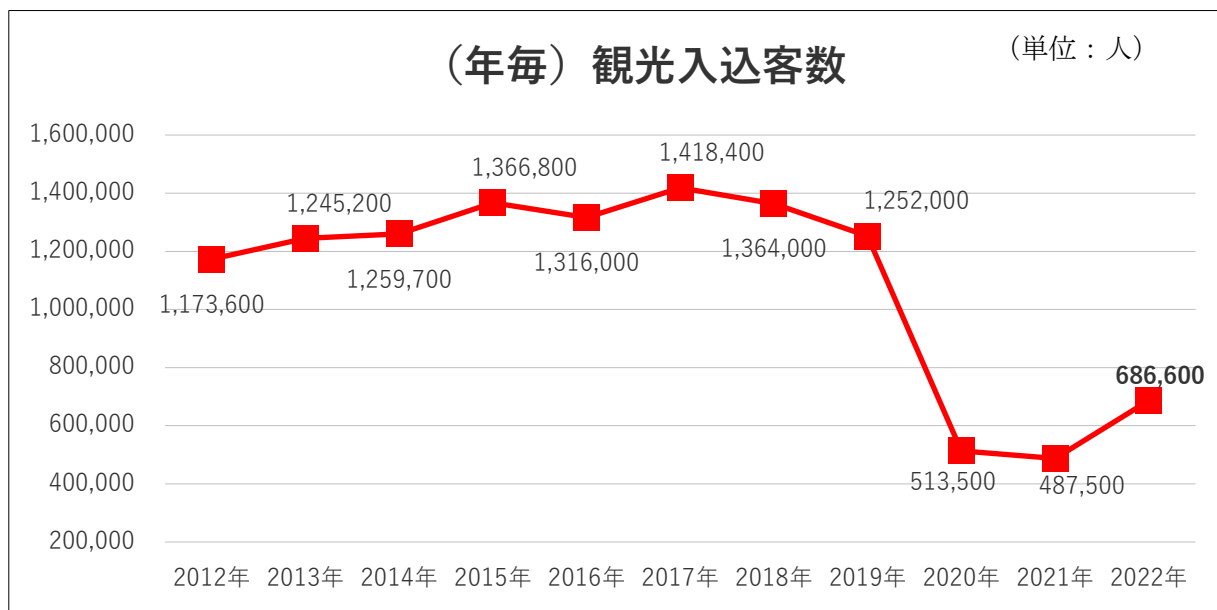
【柳川市宿泊応援キャンペーン事業】

- 実施期間
 - ◆ 2021年11月1日～2022年3月31日
 - ◆ 2022年7月4日～2023年3月31日

2. 観光入込客数

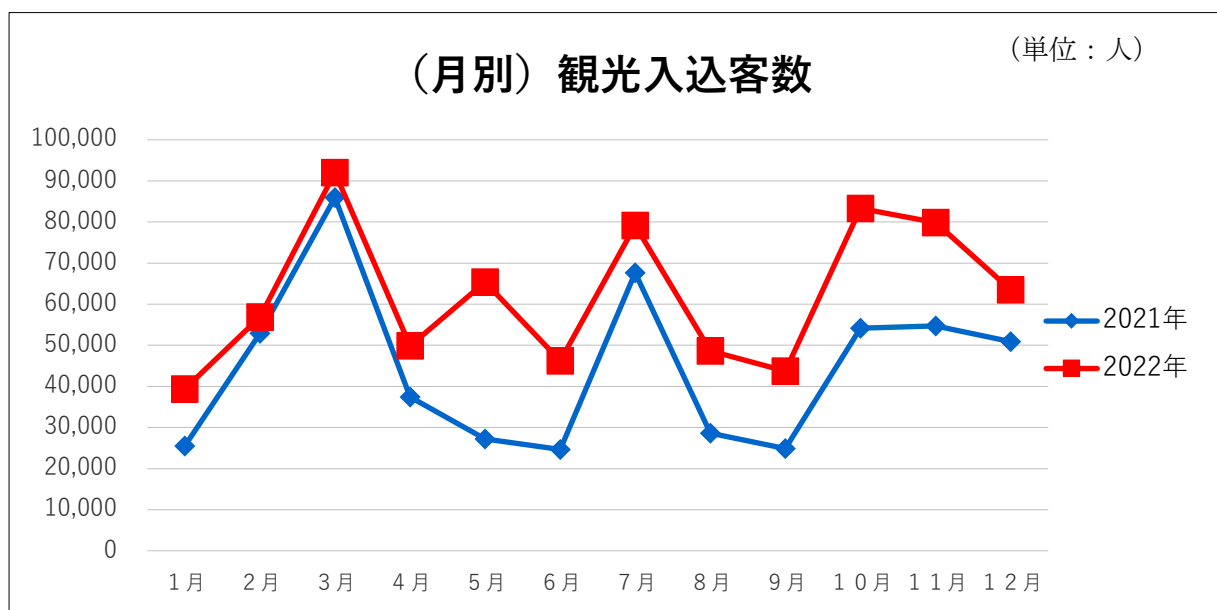
(1) 観光入込客の推移

観光入込客数は、2021年の48万7,500人から40.8%増の68万6,600人となった。コロナ前の2019年の125万2,000人からは45.2%減となった。2021年に引き続きコロナの影響を大きく受けたが、緊急事態宣言が発令されず、10月以降は外国人観光客の個人旅行の受入が再開したことから、2019年の約半数まで回復した。



(2) 月別観光入込客数

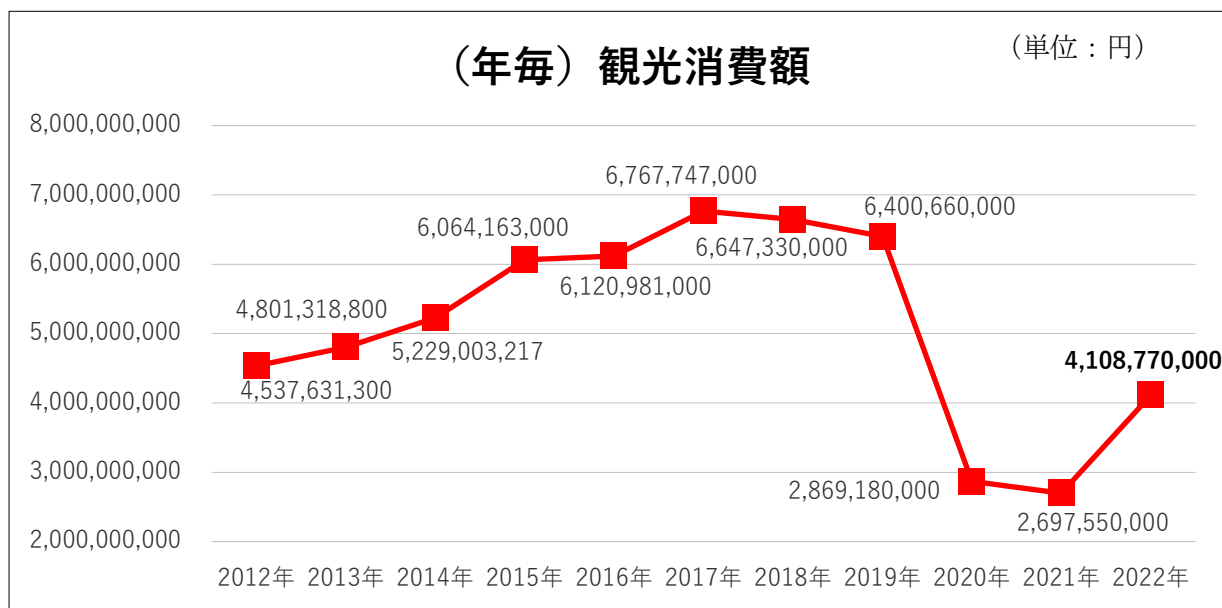
入込客数を月別にみると、柳川雛祭り・さげもんめぐりが実施された3月に月別の入込客数は最大となった。



3. 観光消費額

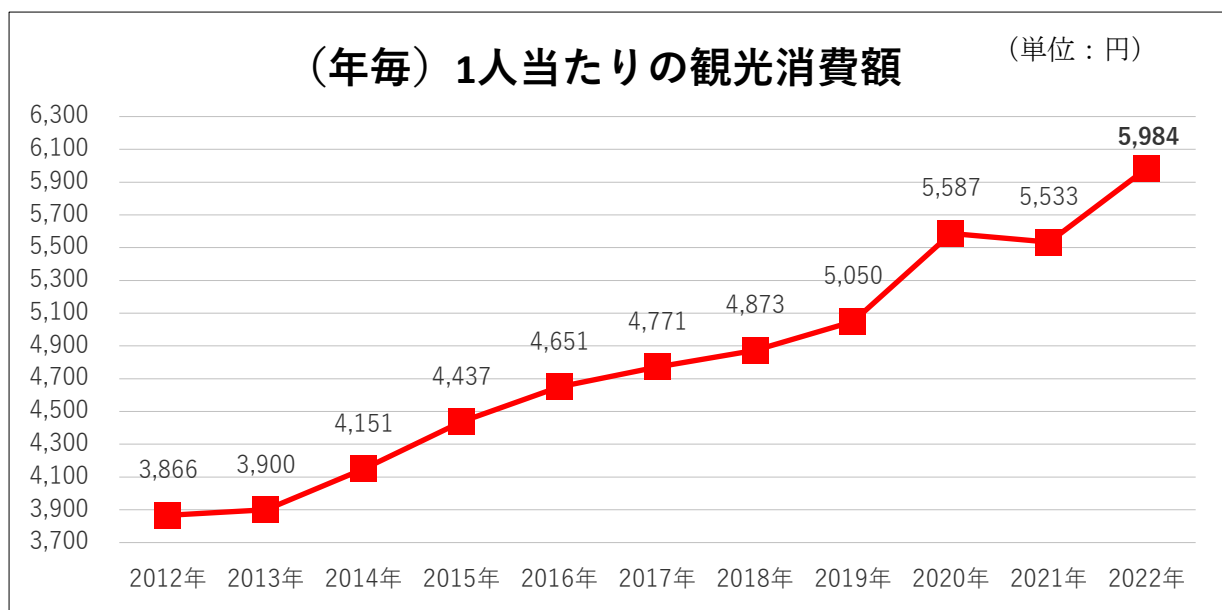
(1) 観光消費額の推移

観光消費額は、2021年の26億9,755万円から52.3%増の41億877万円となった。コロナ前の2019年の64億66万円からは35.8%減となった。消費額の内訳は、食事代が、2021年の11億1,300万円から40.7%増の15億6,637万円(2019年の26億5,000万円から40.9%減)となり、お土産代が、2021年の8億7,700万円から43.1%増の12億5,459万円(2019年の22億3,700万円から43.9%減)、宿泊代が2021年の5億6,330万円から84.1%増の10億3,706万円(2019年の8億2,419万円から25.8%増)となった。



(2) 1人当たりの観光消費額の推移

1人当たりの消費額は2021年の5,533円から451円増、2019年の5,050円から934円増の5,984円(2021年比8.2%増、2019年比18.5%増)となった。福岡避密の旅等による宿泊と飲食店・土産物店でのクーポン等の効果もあり、過去最高の数値となった。

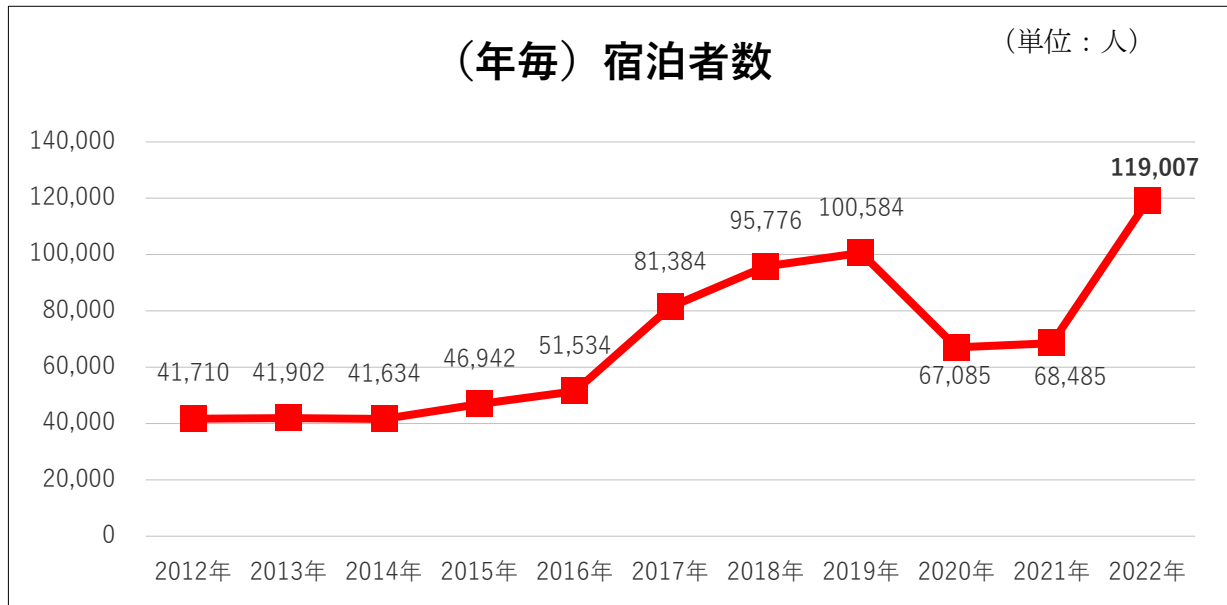


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

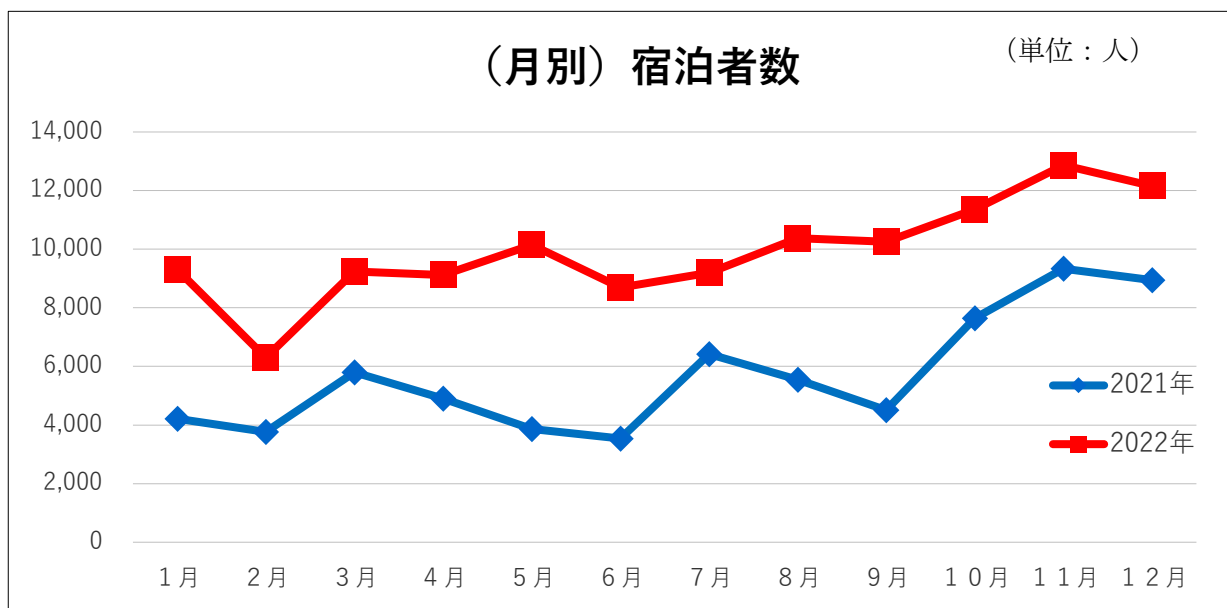
宿泊客数は、2021年の6万8,485人から73.8%増の11万9,007人となり、過去最高を記録した。コロナ前の2019年の10万584人からは18.3%増となった。

観光入込客数に占める宿泊客数の割合（宿泊率）は、2021年の14.0%、2019年の8.0%から17.3%へと高まった。福岡避密の旅や市の宿泊応援キャンペーンにより宿泊者の割合が相対的に高くなったこと、緊急事態宣言が発令されていないこと、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁等で観光客が増加したことが要因と考えられる。



(2) 宿泊客数（月別）

2022年の月別宿泊客数は11月がピークで、次に12月となっている。

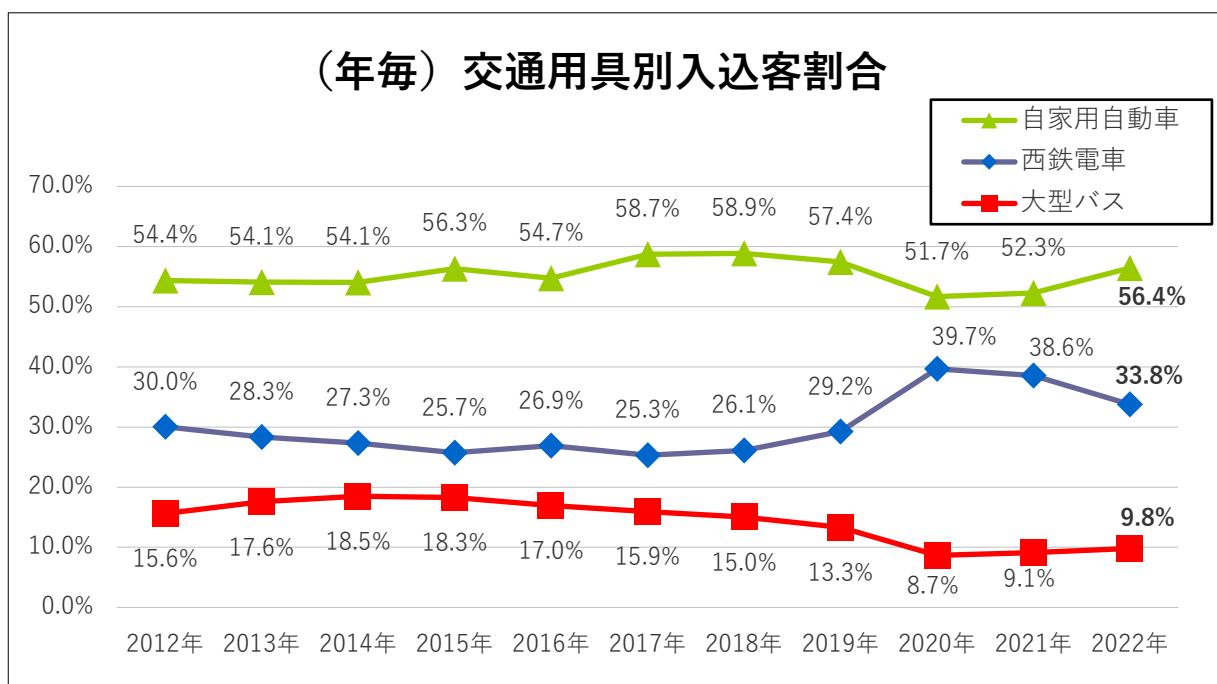
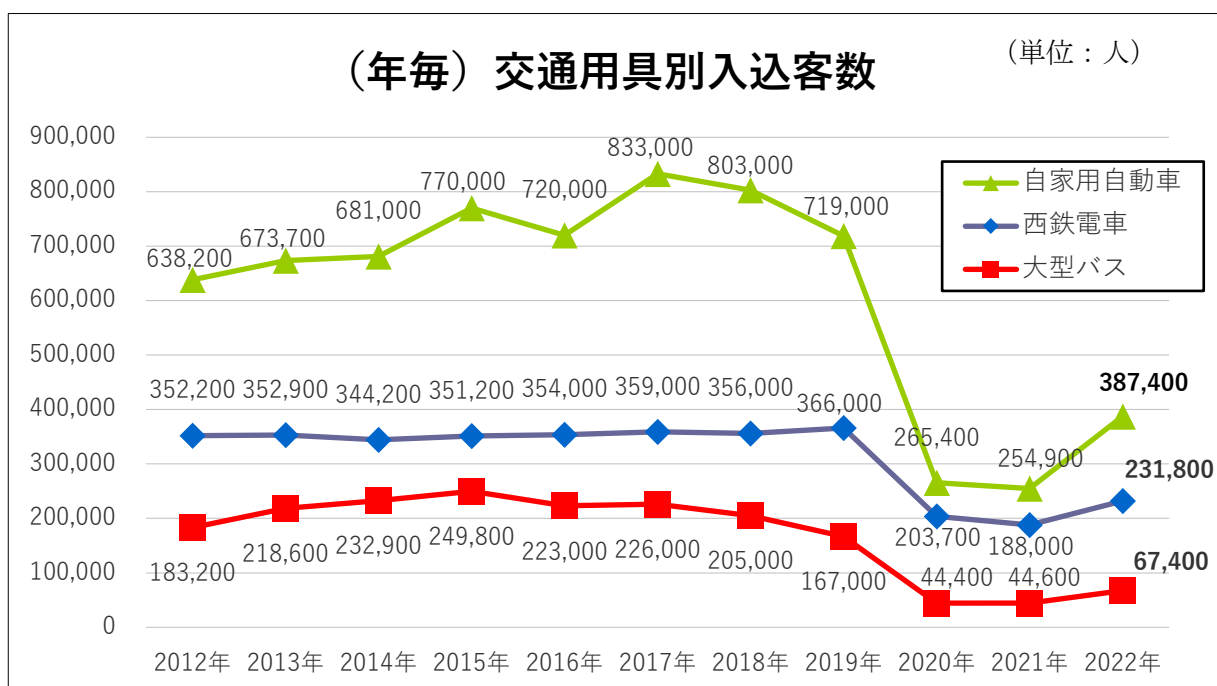


5. 交通用具別入込客数

(1) 交通用具別入込客割合

交通用具別の入込客数は、自家用自動車が2021年の25万4,900人から52.0%増の38万7,400人、西鉄電車が2021年の18万8,000人から23.3%増の23万1,800人、大型バスが2021年の4万4,600人から51.1%増の6万7,400人となった。

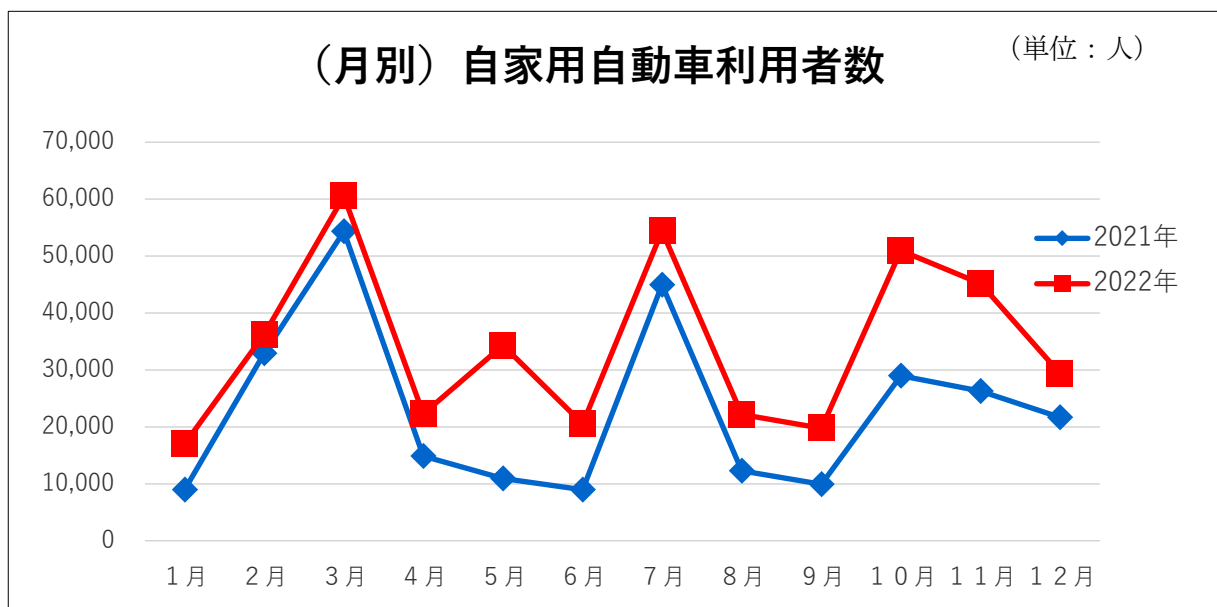
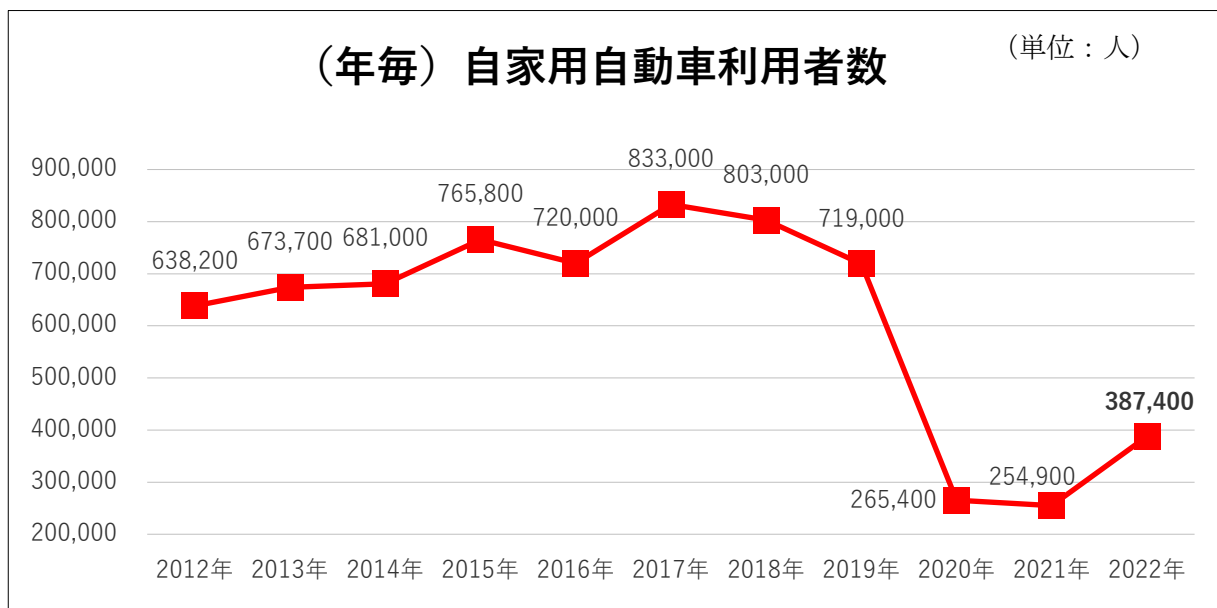
交通用具別の割合は、自家用自動車利用者が56.4%、西鉄電車利用者が33.8%、大型バス利用者が9.8%の割合となっている。2021年と比較して、自家用自動車の割合が増加し、西鉄の利用客の割合が減少している。これは、コロナ禍において密集を避けることの出来る自家用自動車を利用する人の割合が増加したものと考えられる。(2021年は自家用自動車：52.3%、西鉄電車：38.6%、大型バス：9.1%)



(2) 自家用自動車

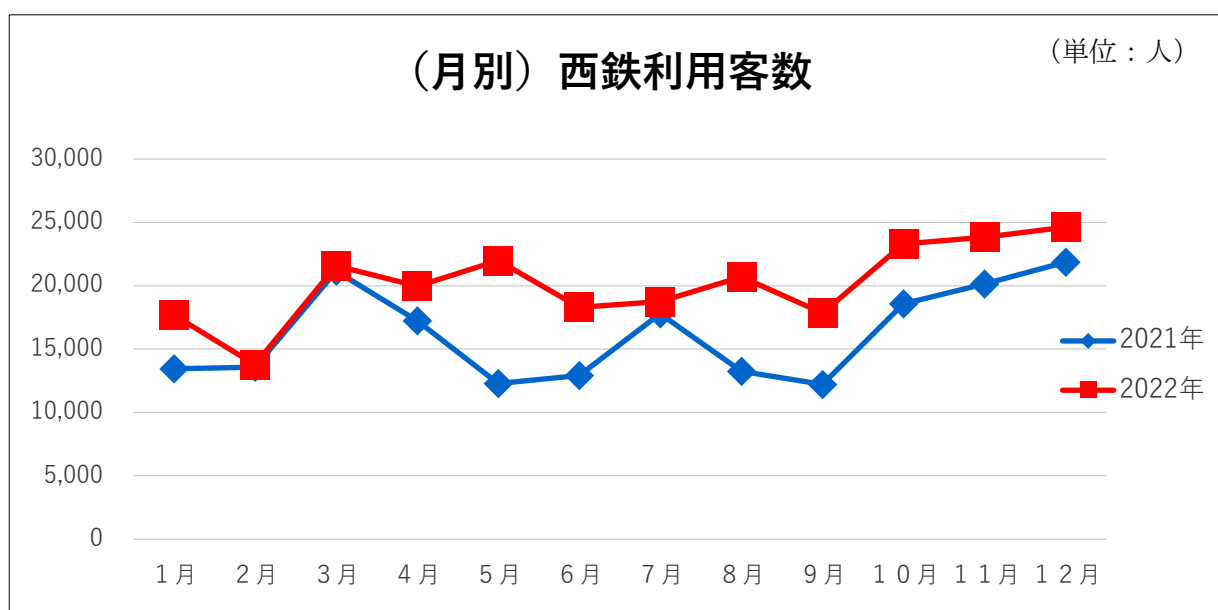
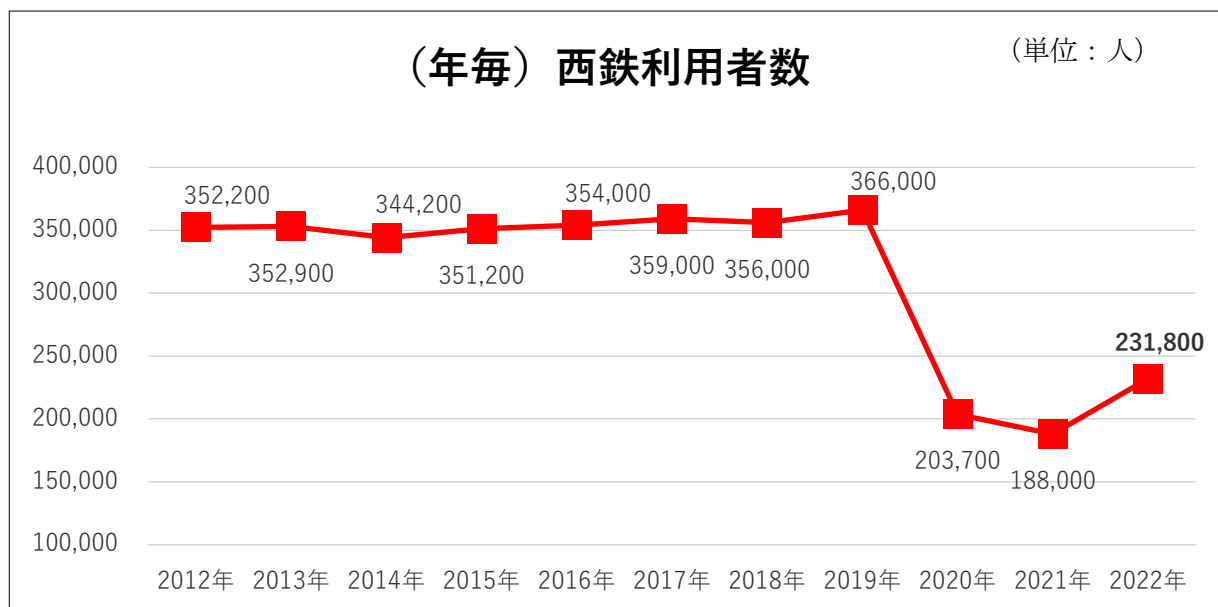
自家用自動車の利用者数は、2021年の25万4,900人から52.0%増の38万7,400人となった。コロナ前の2019年の71万9,000人からは46.1%減となった。2021年と同様に、自家用自動車率の高いイベント（中山大藤まつり）が中止となったが、コロナ禍で旅行手段が他の交通用具から自家用自動車へとシフトしたことにより、増加したと考えられる。

また、月別においては、3月に増えているのは、柳川雛祭り・さげもんめぐりが開催されたことが要因と考えられる。12月に減少しているのは、入込客数の多いイベントが開催されていないことや、西鉄利用者数が増加しており、旅行手段が鉄道にシフトしたこと等が要因と考えられる。



(3) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅の利用客数は、2021年の18万8,000人から23.3%増の23万1,800人となった。コロナ前の2019年の36万6,000人からは36.7%減となった。西鉄柳川駅全体の利用者数は約356万1,000人（2021年約322万4,000人、2019年約422万6,000人）で、うち定期以外の乗降客数約128万4,000人（2021年約104万3,000人、2019年約197万1,000人）であった。西鉄柳川駅全体の利用客は2021年より回復しているが、2019年の水準には戻っていない。



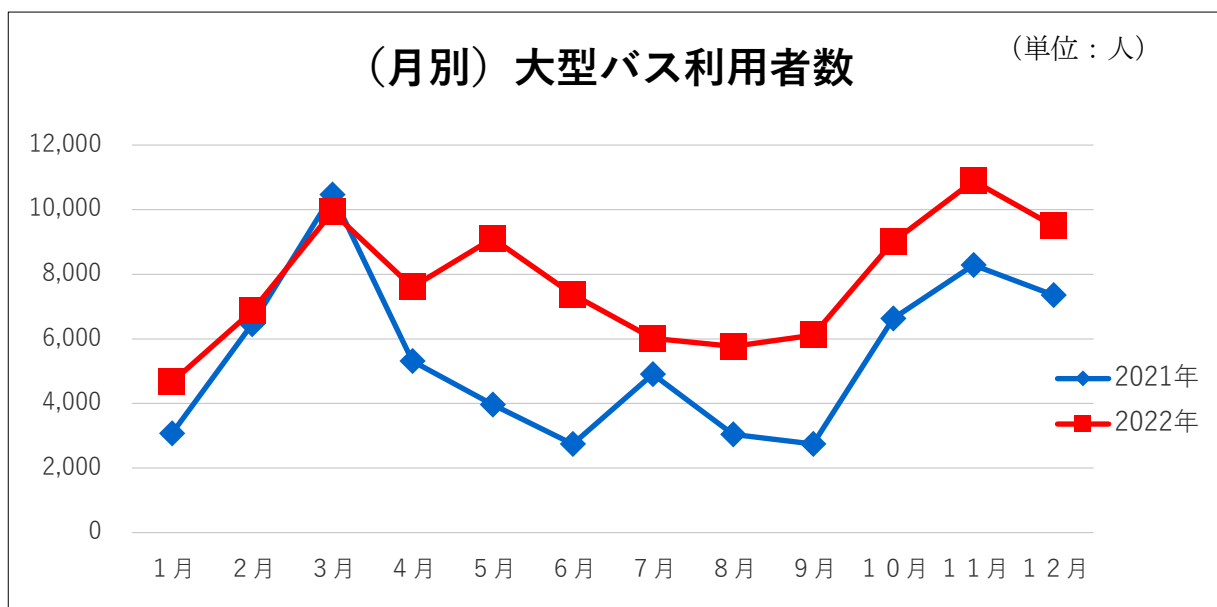
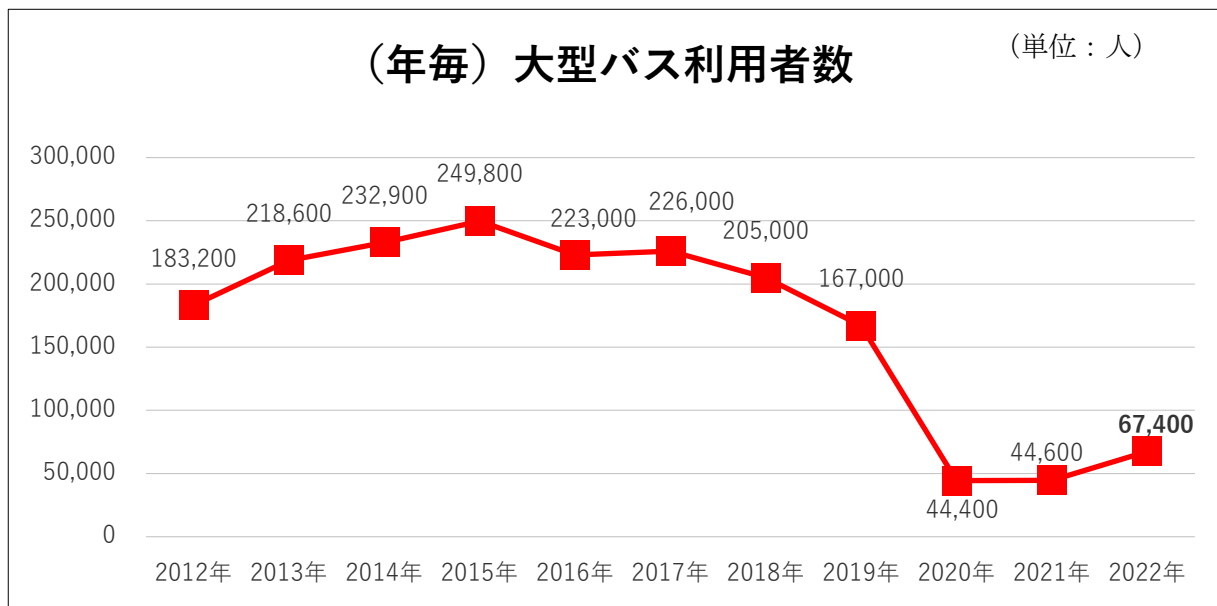
(4) 大型バス

大型バス利用者数は、2021年の4万4,600人から51.1%増の6万7,400人となった。コロナ前の2019年の16万7,000人からは59.6%減となった。

緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。

月別で見ると、3月の雛祭り期間、10月以降の外国人観光客の個人旅行解禁による観光客の大幅な増加が目立っている。

2021年と同様に福岡県や本市の柳川観光V字回復キャンペーンによる修学旅行誘致事業等を行ったが、2019年の水準には戻っていない。



6. 主な観光施設の入込客数

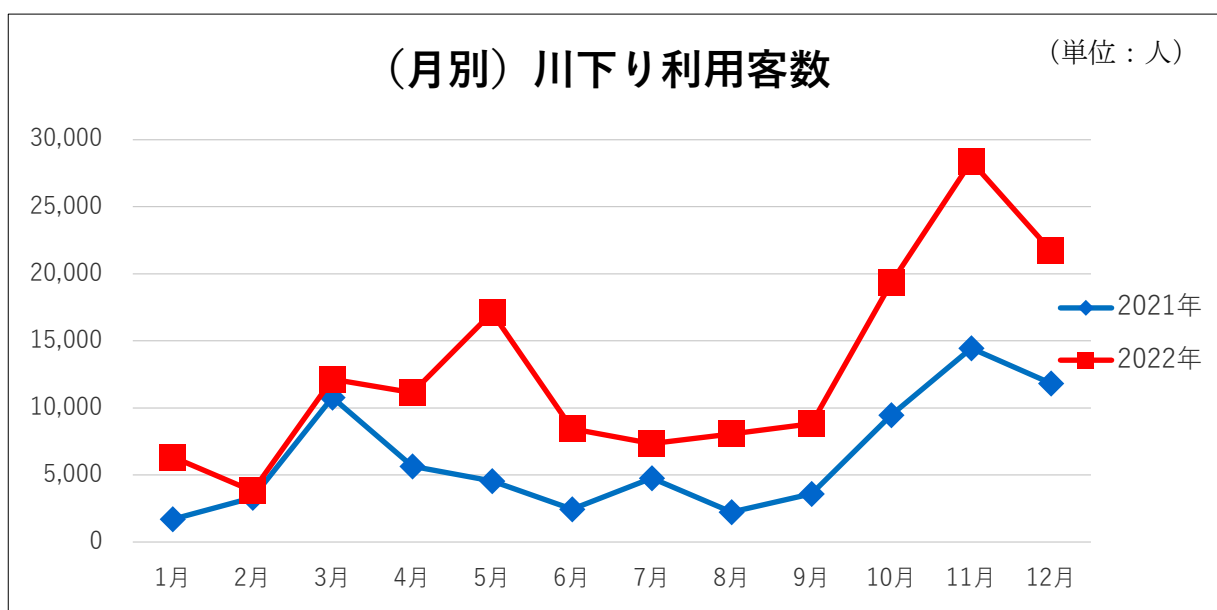
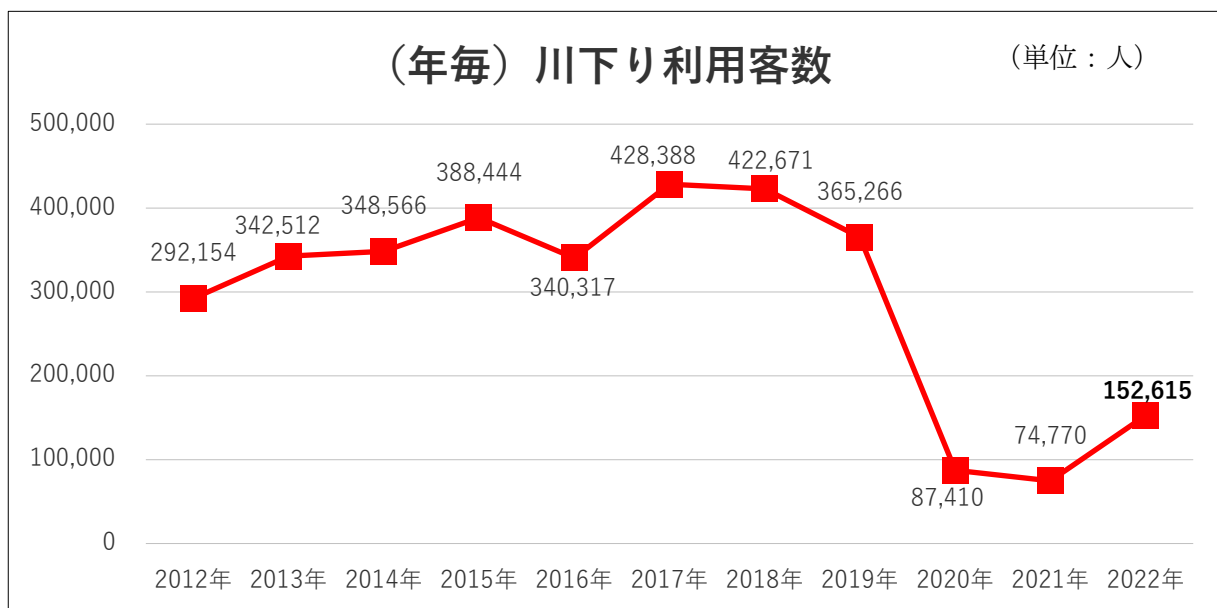
(1) 川下り

川下りの利用客数は、2021年の7万4,770人から104.1%増の15万2,615人となった。コロナ前の2019年の36万5,266人からは58.2%減となった。

緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等の要因のほか、灯り舟の運行等により、2021年より増加となった。

コロナ禍の2020年・2021年と比較して回復傾向にあるものの、コロナによる影響が大きく、中でも川下りを行う割合の高い外国人観光客が2021年に引き続き10月まで入国制限となっていた影響で、2019年の水準には戻っていない。

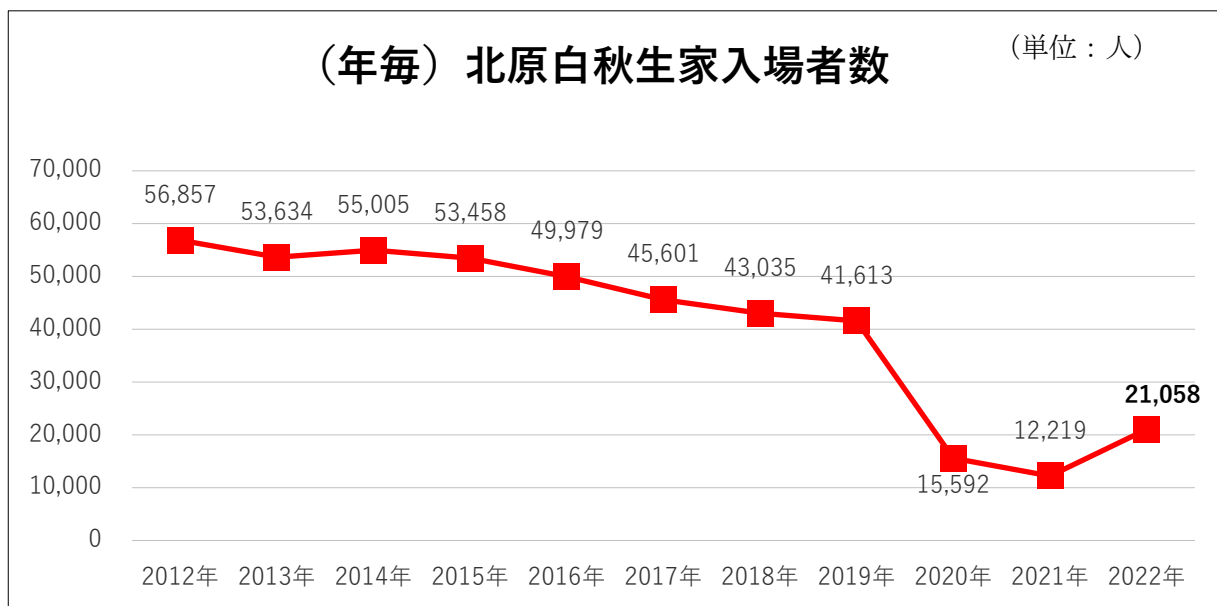
月別で見ると外国人観光客の入国制限が解禁された10月以降より利用客が増加した。



(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、2021年の1万2,219人から72.3%増の2万1,058人となった。コロナ前の2019年の4万1,613人からは49.4%減となった。コロナ後、はじめての増加となった。

緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。

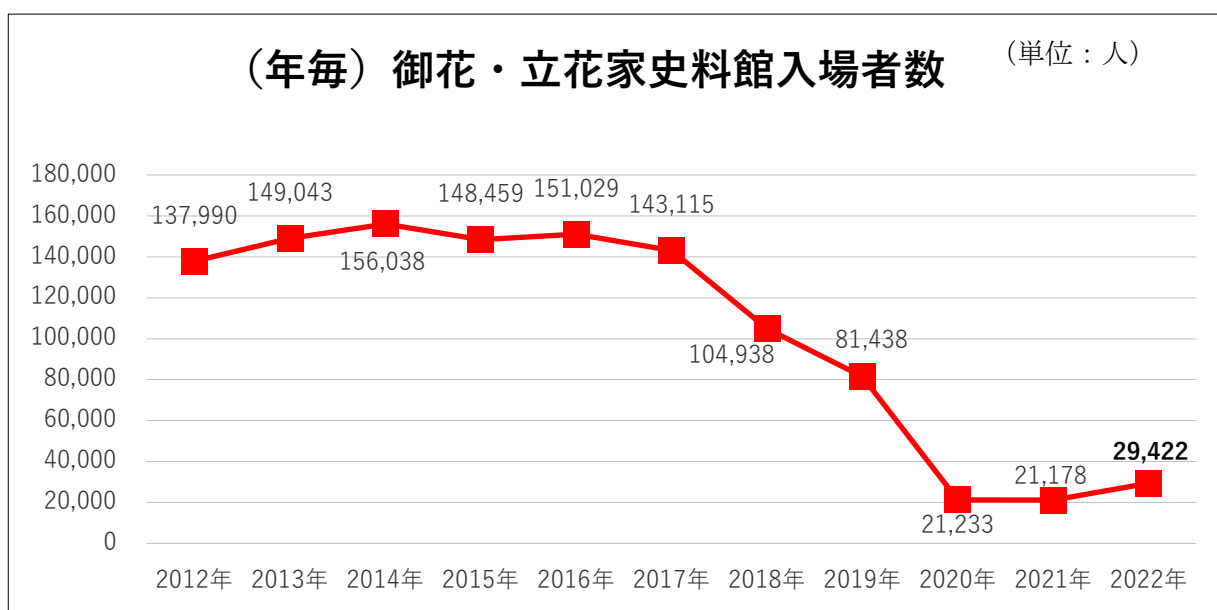


(3) 御花・立花家史料館

御花・立花家史料館の入場者数は、2021年の2万1,178人から38.9%増の2万9,422人となった。

コロナ前の2019年の8万1,438人からは63.9%減となった。コロナ後、はじめての増加となった。

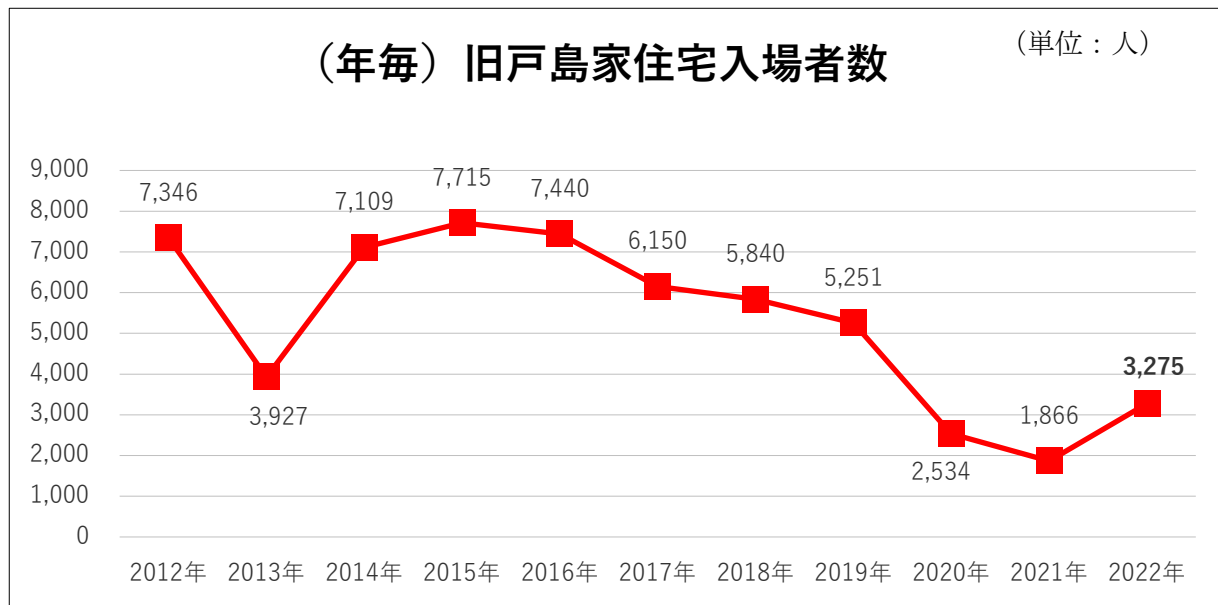
緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。



(4) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅の入場者数は、2021年の1,866人から75.5%増の3,275人となった。コロナ前の2019年の5,251人からは37.6%減となった。コロナ後、はじめての増加となった。

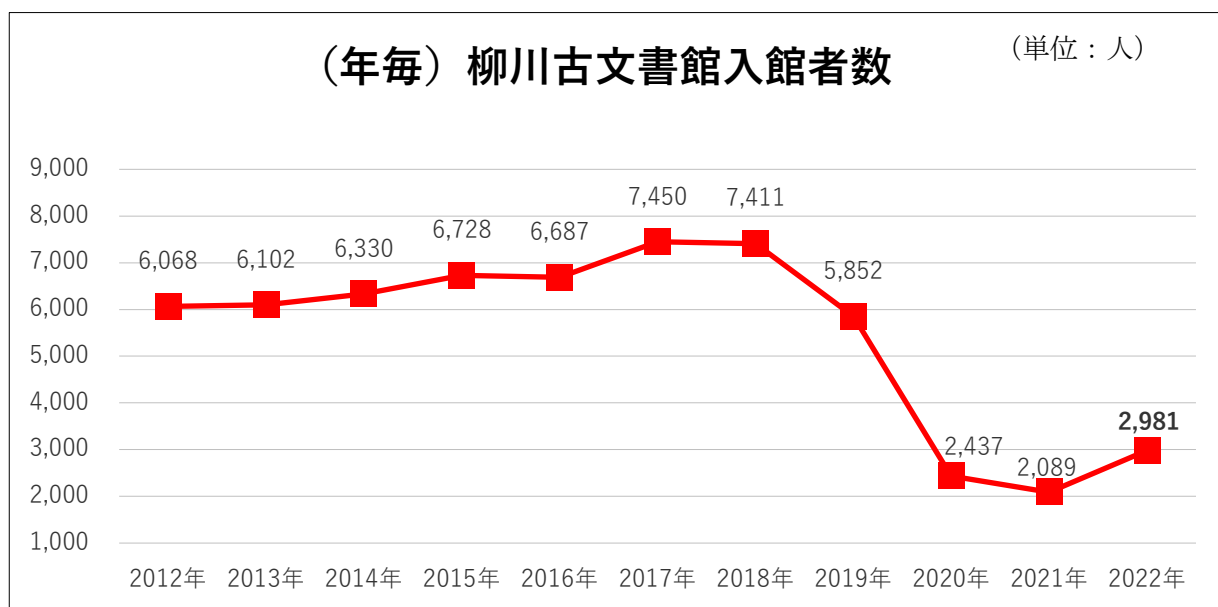
緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。



(5) 柳川古文書館

柳川古文書館の入館者数は、2021年の2,089人から42.7%増の2,981人となった。コロナ前の2019年の5,852人からは49.1%減となった。コロナ後、はじめての増加となった。

緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。

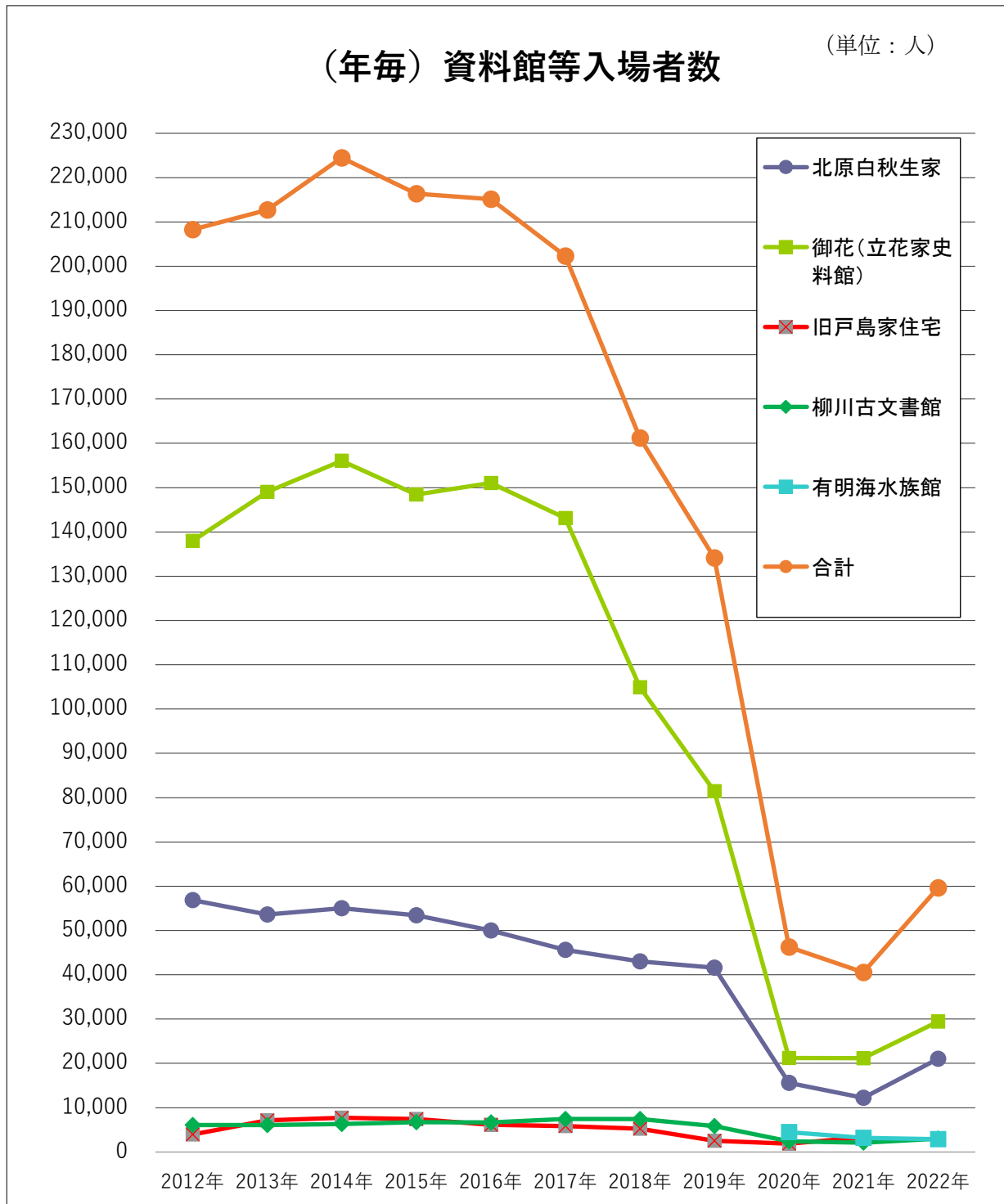


(6) 資料館等入場者数

施設毎の入場者数は、御花・立花家史料館が最も多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、有明海水族館、柳川古文書館の順となっている。全体での入場者数は2021年の4万557人から47.0%増の5万9,615人、有明海水族館を除いた2019年の13万4,154人からは57.7%減の5万6,736人となった。

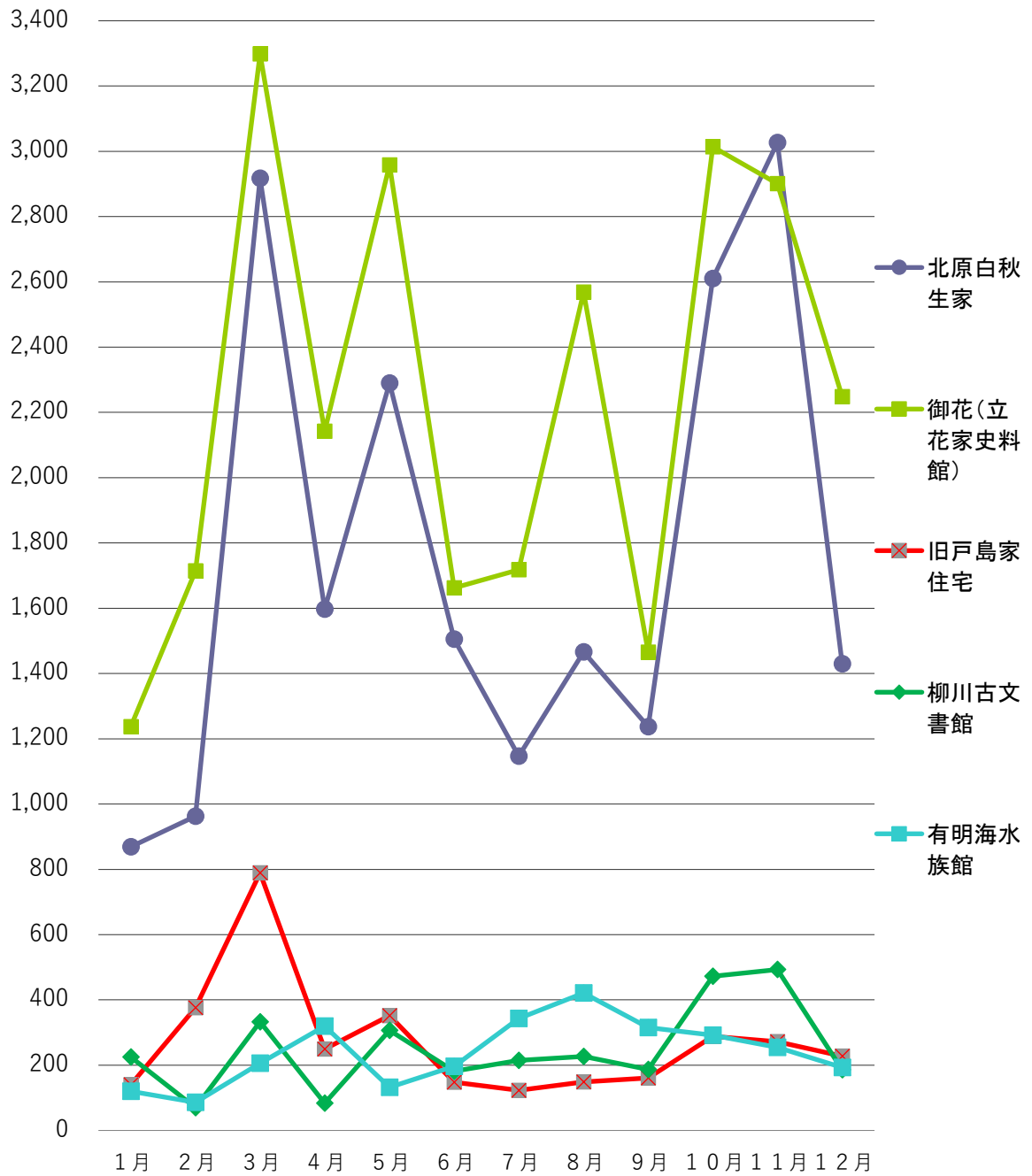
なお、2020年から統計データに加えた有明海水族館は年間2,879人の入場者数であった。

資料館等施設はいずれも、ここ数年減少傾向が続いていたが、有明海水族館を除いて増加となった。緊急事態宣言が発令されていない事や、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁、福岡避密の旅等が要因と考えられる。



(単位：人)

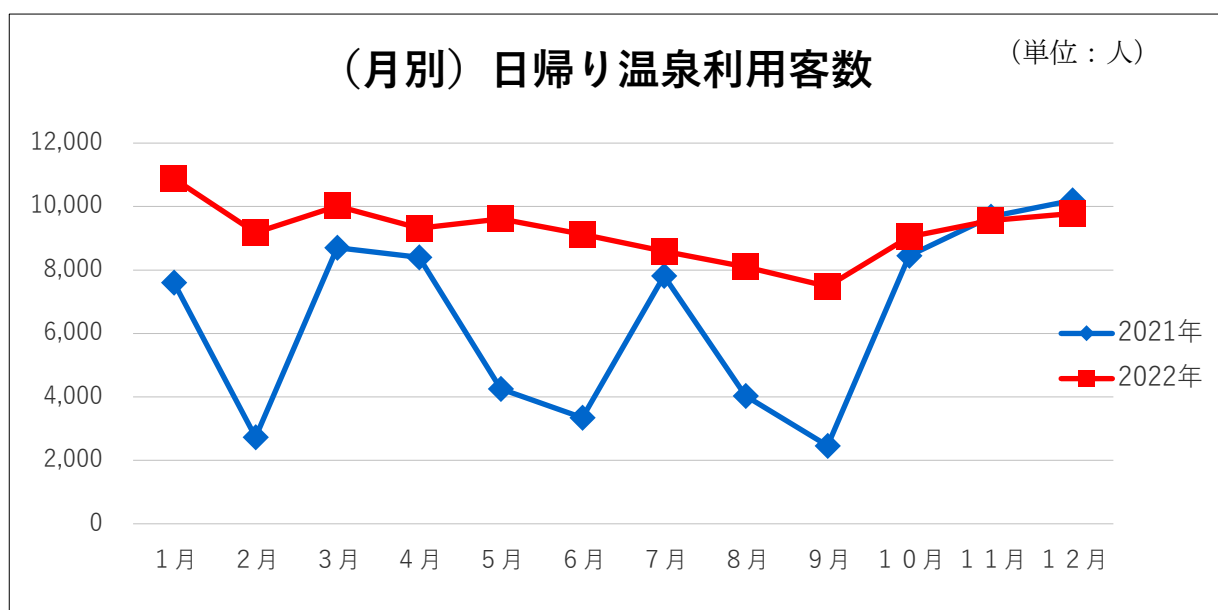
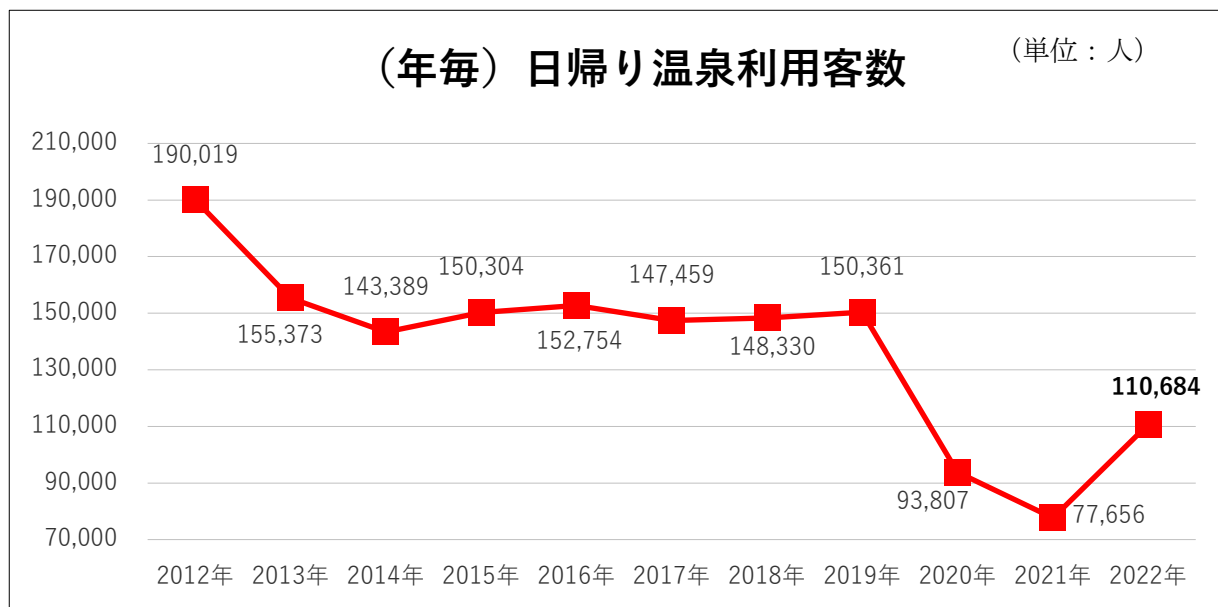
(月別) 資料館等入場者数



(7) 日帰り温泉

日帰り温泉利用客数は、2021年の7万7,656人から42.5%増の11万684人となった。コロナ前の2019年の15万361人からは25.8%減となった。

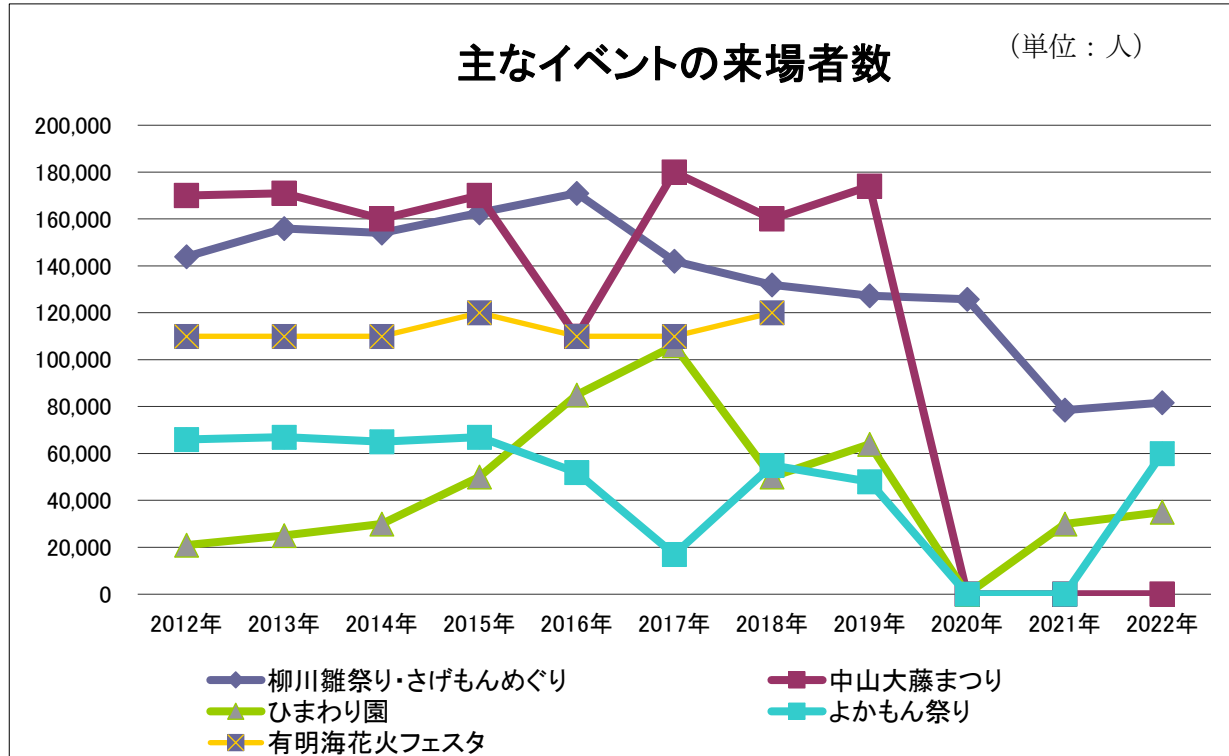
2020年から入場者数の減少傾向が続いていたが、2022年では増加となった。2021年と異なり、コロナによる臨時休館等が無かったため、利用者数が回復傾向にあると考えられる。



7. 主なイベントの来場者数（主催者発表による）

感染拡大防止のため「中山大藤まつり」は中止となった。

なお、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」は、主催者発表で約 8 万 1,800 人、「ひまわり園」は、約 3 万 5 千人であった。



- 中山大藤まつり：2020年～2022年 中止
- よかもん祭り：2020年・2021年 中止
- ひまわり園：2020年 中止
- 有明海花火フェスタ：2018年 終了

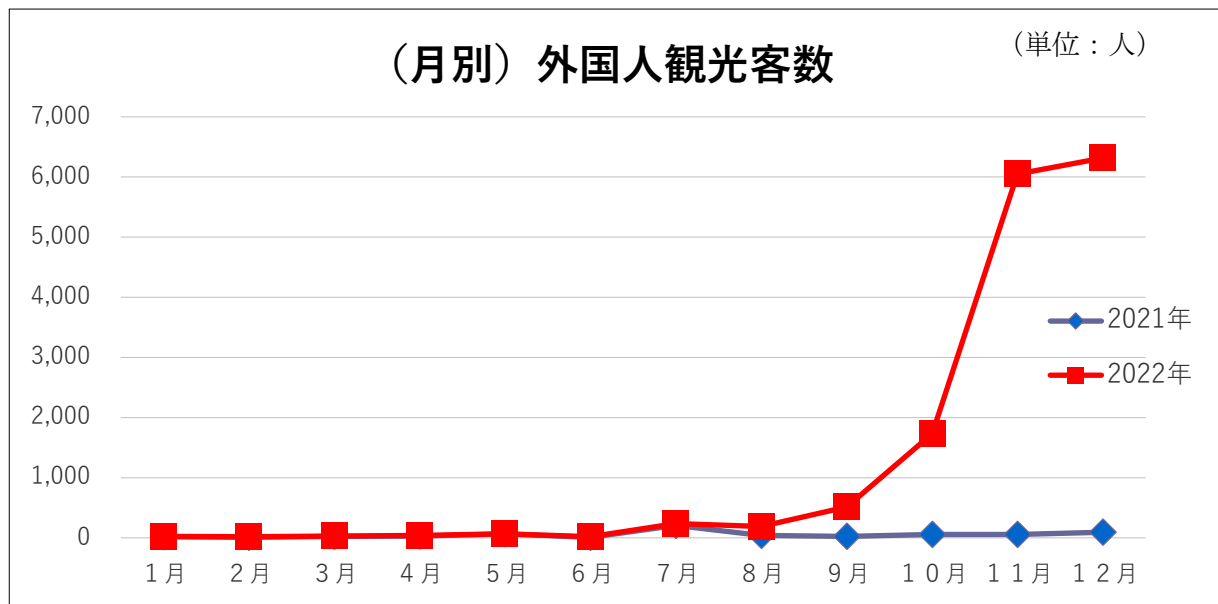
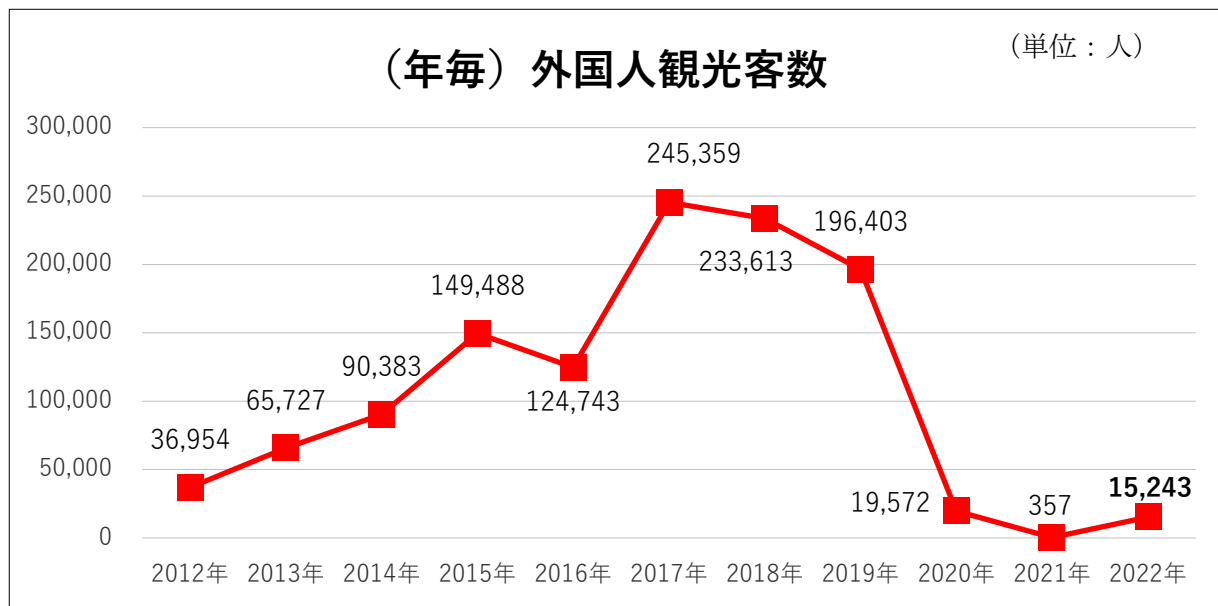
8. 外国人観光客

(1) 外国人観光客数

外国人観光客数は、2021年の357人から4,169.7%増の1万5,243人となった。コロナ前の2019年の19万6,403人からは92.2%減となった。

9月までは、2020年から続く外国人観光客の入国制限により外国人旅行者はほぼ来ていない状況であったが、10月からの外国人観光客による個人旅行の解禁により入込客数が増加した。

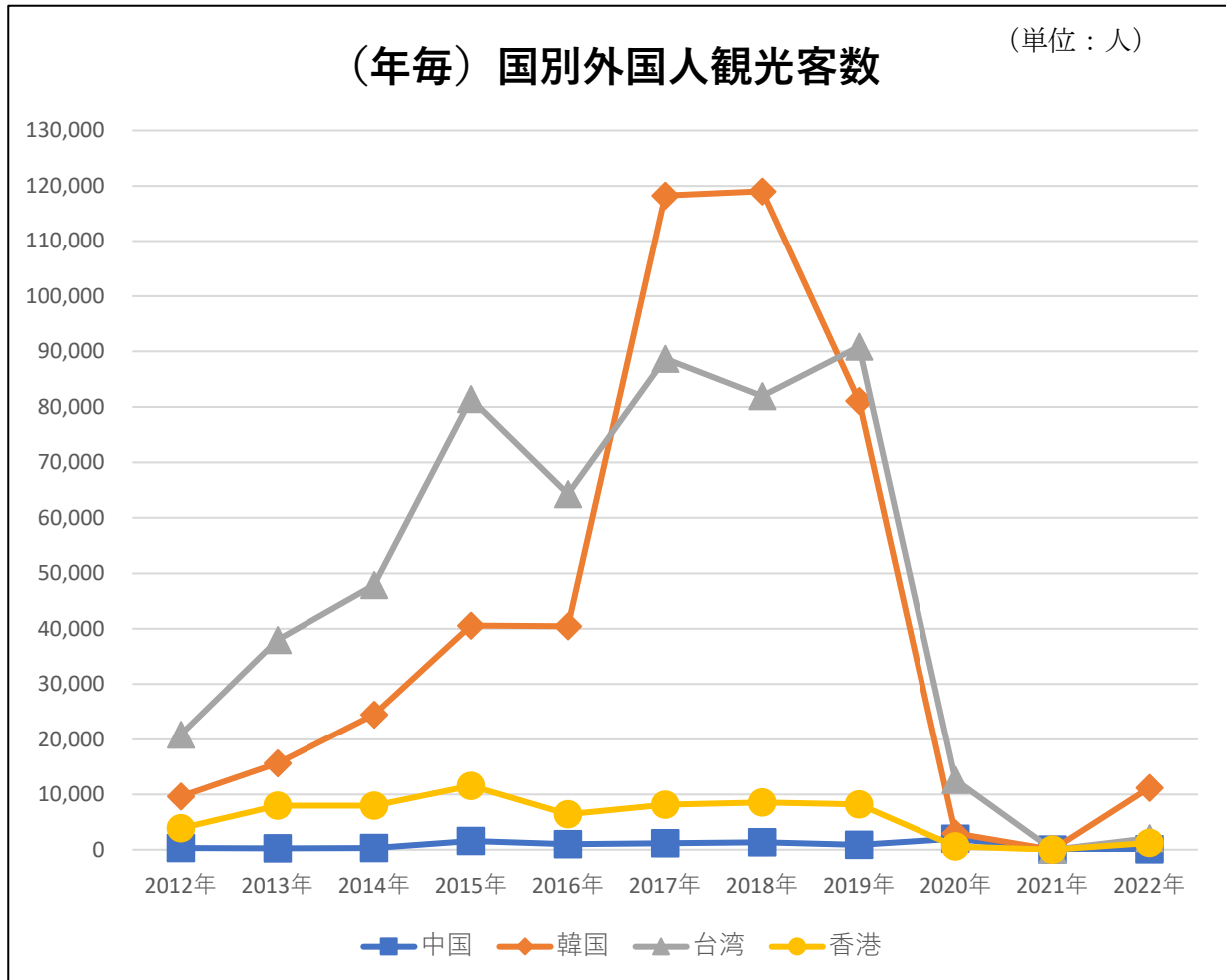
九州運輸局の発表によると、九州の外国人入国者数は2022年の年計で40万2,197人と、2020年の40万4,813人に近い数値となっており、柳川市の外国人入込客数と同様の傾向で増加している。



(2) 国・地域別外国人観光客数（年毎）

外国人観光客の国・地域別比率を見ると、韓国 73.6%、台湾 13.8%、香港 7.9%、タイ 2.0%となった。

2021年は中国 30.3%、韓国 13.2%、欧米豪 12.0%、ベトナム 11.2%であった。大きく変化した理由としては、2021年は国内在住の外国人のみであったこと、6月以降のパッケージツアー受入に伴い、コロナ禍以前より観光客数が多い韓国からの団体客が多数訪れたこと、中国からの入国者に対する水際措置が取られていたこと等が挙げられる。



	2012年客数	2013年客数	2014年客数	2015年客数	2016年客数	2017年客数	2018年客数	2019年客数	2020年客数	2021年客数	2022年客数
全体	36,954人	65,727人	90,383人	149,488人	124,743人	245,359人	233,613人	196,403人	19,572人	357人	15,243人
台湾	20,833人	37,961人	47,896人	81,437人	64,274人	88,720人	81,963人	90,875人	12,676人	2人	2,098人
比率(国/全体)	56.4%	57.8%	53.0%	54.5%	51.5%	36.2%	35.1%	46.3%	64.8%	0.6%	13.80%
韓国	9,636人	15,675人	24,489人	40,575人	40,452人	118,259人	119,016人	81,080人	2,945人	47人	11,212人
比率(国/全体)	26.1%	23.8%	27.1%	27.1%	32.4%	48.2%	50.9%	41.3%	15.0%	13.2%	73.6%
中国	294人	234人	321人	1,557人	977人	1,149人	1,341人	854人	1,991人	108人	76人
比率(国/全体)	0.8%	0.4%	0.4%	1.0%	0.8%	0.5%	0.6%	0.4%	10.2%	30.3%	0.5%
香港	3,865人	-	7,991人	11,562人	6,395人	8,165人	8,558人	8,200人	572人	0人	1,210人
比率(国/全体)	10.5%	-	8.8%	7.7%	5.1%	3.3%	3.7%	4.2%	2.9%	0%	7.9%
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4人	310人
比率(国/全体)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01%	2.0%
欧米豪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43人	90人
比率(国/全体)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.0%	0.6%

2022年：国別外国人観光客数上位4か国

	全体	韓国	比率 (国/全体)	台湾	比率 (国/全体)	香港	比率 (国/全体)	タイ	比率 (国/全体)
2022年客数	15,243人	11,212人	73.6%	2,098人	13.8%	1,210人	7.9%	310人	2.0%

※来訪者数の多い4ヶ国のみ標記しておりますので、比率は足して100%になりません。

参考：観光振興計画の成果指標（KPI）

第4章 基本的な方向性

2. 成果指標（KPI）

- ◆観光入込み客数については、約165万人を目指す。
- ◆外国人観光客数については、約50万人を目指す。
- ◆観光消費額については、約90億円を目指す。

	2008 (H20)	2010 (H22)	2013 (H25)	2018 (H30) ※実績値は H29調査結果	2020	2023	2025	2028
入込み観光客数	117.1万人	115万人 115.9万人	130万人 124.5万人(前年比6%)	150万人 141.8万人	150万人	155万人	160万人	165万人
外国人観光客数	未調査	10万人 2.2万人	14万人 6.6万人(前年比78.4%)	18万人 24.5万人	30万人	35万人	40万人	50万人
観光消費額	48億円	49億円 46.9億円	58.5億 48.6億円(前年比7%)	75億円 67.7億円	75億	80億	85億	90億
観光消費額(1人当たり)	4,100円	4,300円 4,046円	4,500円 3,900円	5,000円 4,770円	5,000円	5,100円	5,300円	5,500円
延べ宿泊人数(約)	52,000人	42,000人	42,000人 (宿泊率3.4%)	81,000人	85,000人	90,000人	95,000人	100,000人
リピート率			55.8% 福岡県内の75.8%がリピーター 九州外の61%がリピーター		62%	65%	67%	70%

	2008 (H20) 調査結果	2010 (H22) ※実績値は H29調査結果	2013 (H25) ※()H23対比	2018 (H30) ※赤字H29	2020	2023	2025	2028
満足度(%)								
食事	59.2	60 67.8%	65 79.2%(11.4%増)	70 85.0	86	87	89	90
みやげ品	37.2	40 25.8%	45 49.1%(23.3%増)	50 65.7	70	72	75	78
観光施設とその内容	42.6	45 51.6%	50 61.3%(9.7%増)	55 70.3	72	75	78	81
当地までの案内看板等の整備状況	36.4	40 34.2%	45 48.9%(14.7%増)	50 63.0	65	67	69	70
市内での移動	37.3	40 35.7%	45 44.3%(8.6%増)	50 62.4	63	65	67	70
観光施設、街の人たちのおもてなし	54.2	55 58.8%	60 67.4%(8.6%増)	65 77.0	79	82	84	87
市内での観光情報	35	40 34.7%	45 49.5%(14.8%増)	50 64.1	65	68	72	75
旅行全体	62.1	65 67.5%	70 74.5%(7%増)	80 78.2	80	82	84	87

※赤字は実績値

<指標設定の考え方>

- 国内人口の減少が予測される中、本計画のKPIで影響が大きく、重要項目となるのが外国人観光客数である。「リピート率」「満足度」を除く指標は、外国人観光客増加に比例して設定している。
 - ①訪日外国人……………2015年の2,011万人から2018年約3,000万人へ 約1.5倍
 - ②福岡県への訪日外国人…2014年121万人から2017年318万人 約2.6倍
 - ③本市への訪日外国人……2013年6.6万人から2018年24.5万人 約3.7倍
 これらのデータと今後の国レベルでの観光政策を考慮し、2018年比、倍増の50万人と設定した。
- 「リピート率」「満足度」は定性的な指標である。本計画の基本理念である「市民みんなでつくる交流力」を実現するためのプロジェクト実施によって向上を目指す。リピート率70%、満足度87%は非常に高いレベルの設定である。

9. 1969年（昭和44年）から2022年（令和4年）までの観光動態推移

区分 (年)	入込客数 (人)	観光消費額 (円)	消費額(1人当たり) (円)	宿泊客数 (人)	白秋生家 (人)	川下り (人)	御花・史料館 (人)	外国人 (人)
1969(昭和44年)	232,630							
1970	279,390							
1971	357,710							
1972	408,850				72,037	42,855	109,320	
1973	451,256				74,214	33,243	103,366	
1974	508,087	1,033,752,100	2,035	40,055	80,508	44,456	106,039	
1975	597,803	1,641,477,670	2,746	37,033	97,352	49,856	123,439	
1976	616,128	2,179,065,660	3,537	39,124	103,597	68,680	114,753	
1977	655,332	2,459,792,040	3,754	40,932	128,433	102,997	148,673	
1978	634,854	2,472,051,540	3,894	42,182	124,538	98,099	151,273	
1979	647,202			50,552	139,320	121,852	177,761	
1980	709,273	2,755,995,340	3,886	48,218	151,138	130,669	194,261	
1981	744,720	3,097,512,020	4,159	56,413	147,069	134,002	194,062	
1982	775,255	3,206,645,290	4,136	60,434	158,724	140,535	192,787	
1983	804,111	3,343,847,850	4,158	60,989	164,385	171,685	184,687	
1984	851,100	3,577,549,060	4,203	66,092	188,851	204,694	207,258	
1985	877,500	3,708,718,000	4,226	69,588	203,235	201,337	227,732	
1986	878,000	3,742,323,540	4,262	64,465	205,761	215,168	212,205	
1987	902,000	3,896,384,900	4,320	69,670	208,531	222,785	209,393	
1988	888,500	3,891,563,010	4,380	74,226	201,126	224,917	201,405	
1989(平成元年)	986,200	4,353,949,920	4,415	69,568	214,284	289,380	245,453	
1990	980,300	4,337,242,420	4,424	71,191	197,535	293,099	216,185	
1991	1,117,800	5,139,087,360	4,598	105,828	217,035	362,896	267,613	
1992	1,197,100	6,167,183,200	5,152	101,016	229,743	387,582	293,051	
1993	1,152,700	6,207,328,330	5,385	100,389	207,463	375,733	280,705	
1994	968,300	5,324,329,790	5,499	97,572	166,204	295,329	230,247	
1995	993,500	5,619,051,770	5,656	107,268	160,912	314,704	227,629	
1996	1,032,800	5,847,380,200	5,662	106,641	156,935	340,633	210,951	
1997	1,046,800	5,987,902,950	5,720	99,672	148,600	349,470	235,317	
1998	1,051,500	5,581,155,800	5,308	91,652	140,444	365,383	241,808	
1999	1,052,700	5,436,385,650	5,164	79,390	127,629	389,137	241,563	
2000	1,053,600	5,343,206,400	5,071	70,971	127,665	386,447	242,552	
2001	1,071,800	5,529,153,600	5,159	78,747	118,430	407,354	260,742	
2002	1,073,000	5,460,435,800	5,089	70,135	106,171	411,470	251,005	
2003	1,112,100	5,555,540,000	4,996	65,259	104,474	400,450	237,138	
2004	1,290,000	6,089,742,100	4,721	63,544	82,945	344,864	237,700	
2005(合併後新市)	1,203,000	5,137,591,000	4,271	60,397	80,854	341,573	213,500	
2006	1,255,000	5,312,082,178	4,233	62,434	82,611	359,598	231,150	
2007	1,218,000	4,935,041,637	4,052	54,879	89,099	356,380	188,206	
2008	1,171,000	4,836,692,287	4,130	52,408	77,890	320,943	159,160	
2009	1,156,000	4,783,851,178	4,138	51,548	75,434	316,483	161,342	10,603
2010	1,159,000	4,689,542,363	4,046	42,239	65,149	315,702	133,429	21,506
2011	1,055,000	4,350,205,000	4,123	38,525	59,905	283,960	150,951	24,024
2012	1,173,600	4,537,631,300	3,866	41,710	56,857	292,154	137,990	36,954
2013	1,245,200	4,855,784,250	3,900	41,902	53,634	342,512	149,043	65,727
2014	1,259,700	5,229,003,217	4,151	41,634	55,005	348,566	156,038	90,383
2015	1,366,800	6,064,163,000	4,437	46,942	53,458	388,444	148,459	149,488
2016	1,316,000	6,120,981,000	4,651	51,534	49,979	340,317	151,029	124,743
2017	1,418,400	6,767,747,000	4,771	81,384	45,601	428,388	143,115	245,359
2018	1,364,000	6,647,330,000	4,873	95,776	43,035	422,671	104,938	233,613
2019	1,252,000	6,322,770,000	5,050	100,584	41,613	365,266	81,438	196,403
2020	513,500	2,869,180,000	5,587	67,085	15,592	87,410	21,233	19,572
2021	487,500	2,697,550,000	5,533	68,485	12,219	74,770	21,178	357
2022	686,600	4,108,770,000	5,984	119,007	21,058	152,615	29,422	15,243